

平成 30 年度

コアスクール報告書

～魅力ある学校づくりの推進～



静岡県教育委員会高校教育課

目 次

1 進学重点

(1) 韮山高校	1
(2) 沼津東高校	3
(3) 富士高校	5
(4) 清水東高校	7
(5) 静岡高校	9
(6) 静岡東高校	11
(7) 藤枝東高校	13
(8) 掛川西高校	15
(9) 磐田南高校	17
(10) 浜松北高校	19
(11) 浜松西高校	21

2 学力向上

(1) 下田高校	23
(2) 三島南高校	25
(3) 富士東高校	27
(4) 清水南高校	29
(5) 静岡城北高校	31
(6) 焼津中央高校	33
(7) 藤枝西高校	35
(8) 島田高校	37
(9) 榛原高校	39
(10) 浜松南高校	41
(11) 浜北西高校	43

3 学力進展

(1) 熱海高校	45
(2) 裾野高校	47
(3) 沼津城北高校	49
(4) 静岡西高校	51
(5) 藤枝北高校	53
(6) 島田工業高校	55
(7) 金谷高校	57
(8) 袋井商業高校	59
(9) 浜松湖東高校	61
(10) 浜松湖北高校	63
(11) 湖西高校	65

4 英語教育

(1) 三島北高校	67
(2) 吉原高校	69
(3) 富士宮西高校	71
(4) 掛川西高校	73
(5) 浜松北高校	75
(6) 浜松湖南高校	77

進学重点

<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>			
大学入試改革に向けての学力向上	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
<2 取組方法>	①授業への取組	45.7%	48%	－（－）
(実施体制)	1年	48.9%	50%	－（－）
各教科代表者等から構成されるSCP（サイエンスコアプロジェクト）を設置し、進路課の課題提起をもとに教科横断的な意見交換と職員研修への提言を行う。	①平日学習時間	2.1h	2.3h	－（－）
(生徒の学力向上)	1年	2.0h	2.2h	－（－）
大学・研究機関見学、校内実力テストの検証、大学セミナー等の定期開催、ICT機器の利用（教員の指導力向上）	①休日学習時間	3.1h	3.3h	－（－）
他県高校視察、職員研修と講演会、大学視察、ICT機器の利用	1年	2.4h	2.5h	－（－）
(高大接続改革)	③授業で力が	10.1%	13%	－（－）
大学講師の派遣、大学見学	ついた実感	9.9%	13%	－（－）
(成果の検証)	①難関国公立大学の	49人	55人	－（－）
学校評価委員会の開催、生徒自己評価アンケート	受験者数	40人	45人	43（－）
(その他)	②外部連携による参	252人	全員	258（－）
外部研究機関との連携、キャリア講演会	加生徒数	29人	30人	－（－）
	②大学進学補講への	65%	70%	－（－）
	参加生徒数	50%	55%	－（－）
	②大学進学補講への	65%	70%	－（－）
	参加生徒数	65%	70%	－（－）
	③難関国公立大学の	83.8%	85%	－（－）
	合格者数	79.0%	80%	－（－）
	①自主的に勉	72%	75%	－（－）
	勉している	55%	60%	－（－）
	1年			
	①時間の使い			
	方を意識			
	2年			
	1年			
	②授業への			
	理解			
	2年			
	1年			
	③ICT授業			
	による理解			
	2年			
	1年			

<4 特徴的な取組>

★ 生徒の学力向上

大学・研究機関の見学

- ・東大訪問（高1 6月）
農学部、工学部、理学部等に分かれ卒業生の学部生・院生・教授から説明を受け、研究室を訪問し、キャンパスを見学する。
- ・国立遺伝学研究所研修（高2 4月）
世界最先端の研究所で生物や遺伝学についての研究や実験の一端に触れ、視野を広げる。



海外語学研修（英国）

大学セミナー等の定期的開催

- ・東大・京大セミナー、難関大セミナー、医療系セミナーを適宜開催し、講演会やワークショップを実施。難関突破に向けたチーム意識を醸成し、情報交換も行う。

各種研修会、大学事業などへの参加

- ・富士山研修、海外語学研修（英国）
- ・エンパワーメントプログラム
- ・名大MIRAI GSC、静大FSS、数理の翼（夏季セミナー、伊計島セミナー）、JAXA他

★ 教員の指導力向上

校内研修会（30年度は5回実施予定）

- ・予備校講師による試行テストの分析及び傾向に関する講演会を実施（5月）
- ・各教科で試行テストを分析（分量、難易度、特徴、今後の指導）し、共有（8、9月）
- ・読解力に関する外部テストの結果分析と生徒の現状把握（9月）
- ・プロジェクト、タブレットの活用などのICT研修（11月）



第3回校内研修会（8月）

授業改革研修

- ・3週間の授業公開週間を年間2回実施（6、9月）
- ・民間業者主催の教育研究セミナーなどへの参加（夏季休業、冬季休業）

文系課題探究コースの研究

- ・探究学科、コースの先進校での探究学習や進路への取組を視察
- ・文系課題研究プログラムを教科で研究
- ・探究コース設置準備を校内の委員会で検討

★ 高大接続改革への取組

大学講師、研究機関職員との連携

- ・課題研究における生徒へのアドバイスなどによる取組のレベルアップ（遺伝学研究所、ジオパーク推進協議会）
- ・大学職員との共同教材開発（山口大）
- 大学職員などによる講演会、ワークショップ
- ・東北大学説明会（6月）、東大学生説明会（9月）、浜松医科大学副学長講演会（11月）、京都大学院生出前講座（12月）



東大学生説明会（9月）

<5 成果と今後の方向性>

【成果】

- ・職員研修を進路課と広報・研修課が連携して実施したことで、授業改革の一層の意欲付けにつながった。
- ・試行テストを各教科で分析し、全体で発表することで、今後の授業改革の方向性が共有された。
- ・進学重点のコアスクールに指定されたことで、難関国立大学合格者数増加に向けた職員の意識がより高まった。
- ・来年度の普通科文系2年生に探究コースを設置することで、1年生を中心に探究的取組への興味関心が高まるとともに、文系課題研究の効果的な実施に向け教員も積極的に研究を進めている。

【課題】

- ・課題探究的な学習プログラムの開発を各教科で一層進めるとともに、カリキュラムマネジメントの視点から科目横断的に探究的な学習が行われるようにすること。
- ・ICT機器を効果的、効率的に活用することで、生徒の創造性や思考の転換に資するような授業研究を継続的に行い、そのノウハウを校内で共有すること。
- ・主に成績中下位層の生徒に必要な自己肯定感を醸成し、上位層のチャレンジ意識を高め、保持するために、初期指導の一層の充実や継続的で効果的な学習支援及び講演会等を行うこと。

静岡県立沼津東高等学校

【教育目標】 21世紀を担う高い志とロマンを持ったグローバルリーダーの育成

研究テーマ

「高い志とロマン、グローバルリーダーの育成、主体的で創造的な生徒の育成」

- ・ 学びの質の転換と授業改善、体験や探究により探究活動を楽しむ活動
- ・ 科学の本質の探究、先端科学技術への主体的な関心と学習意欲の向上
- ・ 教員の指導力の向上
- ・ 高大接続改革の情報収集と研究

研究の必要性・・・現状・課題分析から

- グローカルリーダーに求められる、論理的思考力・表現力、学ぶ意欲等の幅広い学力の育成と定着
- 実験・観察等を通じて、科学的思考サイクルを体得・実感させる指導やICTの効果的・発展的な活用
- 最先端の科学技術に触れる機会やフォーラムへの主体的な参加、身近な自然資源への理解の促進など、体験を通じた科学へのより高い関心・意欲を育む
- 高いところぞしの維持・向上とともに、高大接続を意識して進路実現を確かなものにする教員研修の充実

数値目標

【平成 29 年度 現状分析】

- ① 大学合格者数（現役）★ 過去10年で最多
 国公立大学：190人
 難関国公立大学(医学部)：56人(3人)
- ② 科学技術への理解、興味・関心、意欲・態度への自己評価：4.5点（5点満点）
- ③ 各種科学賞や科学の甲子園などコンテストへの上位入賞者数：3件
 ※「科学の甲子園」全国大会出場

【平成 30 年度 学校独自の具体的達成目標】

- ① 難関大学受験者数の維持：100人
 難関大学合格者数維持：50人
 幅広い学習の維持：
 センター試験5-7、6-7科目構成率95%以上
- ② 大学・研究機関との連携：3大学1研究機関
- ③ 教員外部研修参加者数：30以上

沼東NEXT10研究委員会

校内コアスクール推進・検証機関としての役割

学校行事を通じた豊かな感性・人間性 自治の精神の涵養

- ・ 高大接続改革対応等
- ・ カリキュラムマネジメント研究により新教育課程の編成
- ・ 多面的評価に向けた学習評価の研究等（ルーブリック評価・観点別評価）



ワーキングチーム中心の企画立案と検証、フィードバック（PDCAサイクル）

- ・ 量から質への学びの改善
 主体的学び・対話的学び・深い学びの視点（総合的な学習の時間「揺籃」の取組）
- ・ 学習評価の研究（教員研修）
 思考力・判断力・スキル パフォーマンス評価
- ・ 大学訪問、先進校視察研修、ICT活用等
 チーム沼東としての組織的相乗効果

成果の検証と事業の改善計画

- | | |
|----------------------|----------|
| ○ 3年間の定点観測、比較による検証 | 数値目標の見直し |
| ○ 次年度に向けた改善項目の検討と提案 | 新規事業 |
| ○ 効果的なICT活用の研修の主導と研究 | 職員研修と活用 |
| ○ 普通科生徒への機会提供の研究 | 行事予定の見直し |

本年度実施または計画の特徴的な取組：～体験的探究プログラム～

キャリアアッププログラム

大学・研究機関の専門家による研究内容の探究や意欲を触発する本物の講演会等

- 「秋季講演会」「職業を知るセミナー」
- 「大学出張講義」
- 「大学訪問」（講義体験）



職業セミナー

グローバル体験プログラム

他国言語・文化への理解と国際的な諸問題に関する関心を持ち、多面的な視野で見る態度を育成

- 「B.B.研修」(アメリカ 4泊6日)
- 「エンパワーメント・プログラム」(国内5日間)
- 「ディベート体験」「模擬国連」(揺籃)



ディベート体験

地域交流・科学プログラム

研究機関等と連携した地元の自然科学資産(伊豆半島等)の实地踏査による理解促進と地域貢献

- 「伊豆ジオパーク・フィールドワーク」
- 「中学生科学体験教室」
- 「富士山・駿河湾探究」(予定)



ジオパーク・フィールドワーク

アカデミックチャレンジプログラム

理系生徒・自然科学系部活動への「各種科学賞」への主体的なチャレンジを支援

- 「自然科学系部活動等支援」
- 「課題研究の質的向上」
- 「物理チャレンジ参加」「科学の甲子園」等



課題研究中間発表

科学の本質探究プログラム

科学の本質を体験し、探究し発信する課題研究の実施と専門家による助言

- 「課題研究」
- 「東京大学・国立遺伝学研究所訪問」
- 「民間研究機関訪問」(予定)



国立遺伝学研究所研修

最先端科学体験プログラム

最先端の研究室を訪問し体験するとともに、本物の講演を聴き意欲を喚起する

- 「科学講演会(3回)」「医学科講演会」
- 「サイエンスダイアログ」
- 「電子顕微鏡実習」等



電子顕微鏡実習

<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>		
<p>「如之何（これをいかにせん）」プロジェクト —主体的な学習者の育成を目指して—</p>	成果指標	初期値	目標値
<2 取組方法>	①授業への取組 2年 1年	29.6 37.4	35.0 40.0
<ul style="list-style-type: none"> ・コアスクール委員会の設置 ・土曜講座、補講の実施（全学年） ・フィールド・ワーク（大学訪問）、出張講義（2年）の実施 ・企業訪問、職業体験（1年） ・科学の甲子園等への参加 ・大学における研究体験（東大訪問 1年） ・Classiの活用（1年） ・先進校への学校訪問 ・教育研究者による意識調査（教員） 東京大学大学院教育学研究科 学校開発政策コース 福畠 真治氏 ・ジャーナリストによる講演 時事通信出版局 坂本 建一郎氏 ・予備校等のセミナーへの参加 	①平日学習時間 2年 1年	2.4 2.6	2.8 2.8
	①休日学習時間 2年 1年	3.8 4.0	4.0 4.0
	③授業で力が ついた実感 2年 1年	10.1 10.9	15.0 15.0
	①難関国公立大学の 受験者数	63人	65人
	②外部との連携による 探究活動等への 参加生徒数	50人	80人
	②大学進学を目的とした 補習等への参加 生徒数	964人 (98.3%)	960人
	③難関国公立大学の 合格者数	28人	40人
	①センター試験の 5－7型構成率	93.5%	95%
	②科学の甲子園等への 参加生徒数	50人	60人
	③進路指導に関する 積極的満足度	生徒42% 保護者24%	45% (30%)

<4 特徴的な取組>



◎東京大学訪問 8月7日

1年生希望者と理数科の生徒合計90人で、東京大学訪問に行ってきました。

午前には本校OBに案内されて博物館の見学及び学内散策。午後は本校OGの工学部教授高井まどか先生による講義の聴講。その後、OB・OGとのフリートーク。

講義は多少難しい内容も含まれていましたが熱心に聴き、またその内容に関する医療機器を実際に触れてみて興味深く見ていました。教授のキャリアパスにも興味を持った生徒もいました。

フリートークでは大学生活について、高校時代についてと様々な質問が出て学生達はそれぞれ親身になって答えてくれました。予定時間をオーバーするほど盛り上がりました。

< 4 特徴的な取組 続き >

◎1年職業体験 8月

1年生がそれぞれの希望により、富士市役所、地方検察庁等の行政機関、地元金融機関、ジャトコ、旭化成、JTB等の民間企業で職業体験をしました。

また、富士市のfきゃる（若者のためのキャリアデザイン支援室）の協力により、富士市で働く様々な職種の方を学校に招き、働くことに関するパネルディスカッションを実施しました。

これ以外にも、1日体験ナース、こころざし育成セミナー等にも多くの生徒が参加しています。



◎ジャーナリストによる講演 9月20日

講師：時事通信出版局 坂本 建一郎氏

演題：「自分の「未来年表」を作る

—2030年、私は何をしている—

大学入試制度の大きな改革が行われようとしている現在、その背景にある時代の動きを知り、これからの時代をどのように生きていくべきか。そのような視点で熱心にお話いただきました。

2030年、12年後、そう遠くない将来。自分はどこで何をしているのか？ 先ずそれを想像し、IoTやAIの進化による Society 5.0 の到来を予見した上でもう一度想像してみる。

生徒たちは周りとは相談したりしながら、ワークシートに書き込んでいました。

< 5 成果と今後の方向性 >

1年生に対しては、今後、大学訪問を実施し、更にキャリア意識の育成に努めていく。その活動歴をClassiにより記録させていく。2年生に対しては、文系理系の希望による出張講義を実施し、具体的な進路先の決定に向けて指導していく。土曜補講等は予定通り実施している。

教員に対しては、予備校セミナーへの参加等、予定通り実施している。今後、東京大学の研究者による意識調査を実施し、教育改革への対応、授業改善等に向けての課題を明らかにし、学校改善につなげていく。

キャリア意識、主体的な学習態度の養成に重点をおいた事業であるが、現段階では学習時間の増加等にはつながっていない。また、参加人数が多くなるほど、探究的・体験的な活動は実施が困難となることが課題である。

1 学校の課題

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校として、理数科を中心とした指導・取組を実践し、進学・諸活動において実績を上げてきた。



- 課題**
- ① SSH の成果の普通科・文系生徒への波及・拡充
 - ② より上位を目指す進路意識の醸成
 - ③ 第一希望の実現
- ※ 高く確固たる進路目標の設定とその確実な実現に向けて、教科内・教科間の連携と進路部と学年の連携、さらにそれらの連動を図ることが必要

2 平成 30 年度のこれまでの取組

生徒の学力向上

大学・研究機関訪問 <6～8月>

東京大、京都大、名古屋大、東北大を訪問。東大・東北大訪問は1泊2日で実施。大学職員による概要・入試説明、本校卒業生の協力を得ながら施設・研究室見学や卒業生との懇談を通し、参加生徒は大学のイメージを肌で感じ取った。(理数科、1・2年希望者)



キャリア教育の推進

● 高大連携講座 <10月>

大学教授等の専門的な講義を通して、進路に対する意欲の高揚と主体的に学ぶ意識が高まった。静岡大学、静岡県立大学から講師を招聘した。(2年生対象)

「意識が高まった」と答えた生徒の割合：62%



● プロフェッショナルと語る会 <10月>

職業に関して実際に活躍する実業家や専門家による講義により、職業を知ることによって生徒の目指す将来像が具体化した。(1年生対象)



医療系講座・講演 <通年>

医・薬・看護・医療(理学療法・作業療法等)への進学に対応した特別講座により、確固な意識と難度の高い入試への確に対応する。医療人としての適性から受験・面接までに関して2・3年で継続して実施する。(通算全6回)



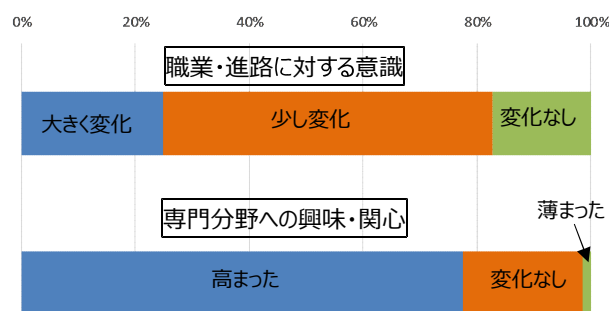
※2月に講演会計画

学習環境の整備・学習活動支援

● 大学生による指導 <通年>

定期テスト前1週間の一斉学習会に合わせ、地元大学生(静岡大学等)からの指導により疑問点を解決している。

事後アンケート結果



グローバル体験の推奨

● 県教委主催事業への参加<8月>

高い志を持って、自らの可能性を高める自主的な活動を薦め、夏休み期間を利用して自主的に海外研修へ参加した。
「海外体験促進事業(県内大学との連携)」: 2人(1年)
「モンゴル国との高校生相互交流事業」: 1人(2年) など



● 『留学のススメ』OB・OG企画<12月計画>

本校卒業生(大学生)が、自らの留学体験やそれらから感じた高校時代に知っておきたいこと、やっておきたいことを在校生に伝える。

教員の指導力向上

授業の質の改善

● ICTの効果的活用<9月~>

8月に設置された普通教室へのICT機器の活用を促進した。

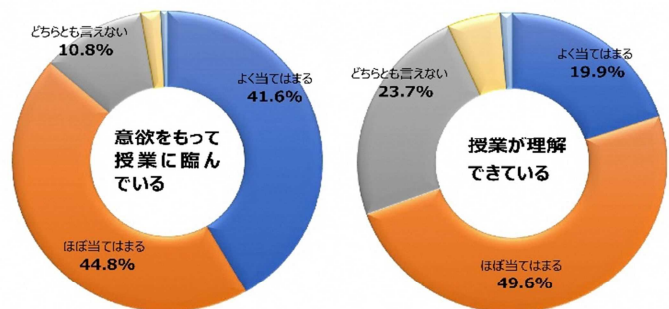
● AL型授業の推進<通年>

校内研修会で授業力向上研修等を伝達し、AL型研究授業・研究協議に参加した。「交流授業」期間を新設、全教員が授業を公開し、参加者から指導・助言をもらった。



● 授業評価アンケートの実施

全教員が授業集団を対象に授業改善に向けたアンケートを毎学期実施。第1回(6月)結果を集計・分析し、会議にて報告した。



- 正確な実態把握
- ICTの効果的な活用
- グループ学習の積極的導入

「進度が早い」「レベルが高い」...35%程度
「教員の説明が分かりやすい」...9割以上

難関大学受験への対応力<通年>

● 校外模試分析会、大学個別入試分析会への参加、各教科での夏季休業中の予備校講習への参加を通じて、難関大学受験に向けた教科・進路指導への自信を高めた。

校内研修会・最新情報の共有

● 授業力向上研修等の伝達、大学入試改革の動向及びJAPAN e-Portfolioの理解の促進を図り、最新情報の共有化と今後の方向性を確認した。1年生にスマホで情報入力を試行した。

進学情報の収集、先進校への訪問

● 新大学入試に関わる文科省や審議会の情報・資料をNESの共有文書DBに集約し、教員間での共有化を進めた。<通年>

● 総合的な学習(探究)の実践、授業改善・学習評価の研究を進める県外校(2月計画)、e-portfolio導入・活用に積極的な県外校(11月計画)やSSH指定校へ訪問する。

高大接続改革

コンクール・発表会等への参加の促進

部活動や個人で自主的参加し、多くの成果を上げた。学力3要素の主体性評価に直結するものとして推進していく。(科学オリンピック、学生科学賞・山崎賞・鈴木賞受賞、静岡大学FSS・GSC参加、H31全国高総文祭出場、英語通訳ボランティア・県英語スピーチコンテストなど多数)



<p><1 テーマ></p>	<p><3 成果指標と実績></p>																																																	
<p>印高(高きを仰ぐ)の精神の涵養 ～校内外の学習活動を通して主体性を育む～</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>26%</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>32%</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>2.06</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>2.23</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>3.20</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>3.52</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>③授業で力が</td> <td>2年</td> <td>8%</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>ついた実感</td> <td>1年</td> <td>12%</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>①難関国公立大学の受験者数</td> <td>140人</td> <td>140人</td> </tr> <tr> <td>②外部連携による探究活動 参加生徒数</td> <td>90人</td> <td>150人</td> </tr> <tr> <td>②大学進学を目的とした補習 参加生徒数</td> <td>830人</td> <td>850人</td> </tr> <tr> <td>③難関国公立大学の合格者数</td> <td>69人</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>①難関国公立大学の志願者数</td> <td>160人</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>③キャリア意識の高まりと 進路目標の設定</td> <td>今後 策定</td> <td>今後 策定</td> </tr> </tbody> </table>			成果指標	初期値	目標値	①授業への取組 2年	26%	40%	1年	32%	40%	①平日学習時間 2年	2.06	2.5	1年	2.23	2.5	①休日学習時間 2年	3.20	3.5	1年	3.52	3.6	③授業で力が	2年	8%	15%	ついた実感	1年	12%	18%	①難関国公立大学の受験者数	140人	140人	②外部連携による探究活動 参加生徒数	90人	150人	②大学進学を目的とした補習 参加生徒数	830人	850人	③難関国公立大学の合格者数	69人	70人	①難関国公立大学の志願者数	160人	160	③キャリア意識の高まりと 進路目標の設定	今後 策定	今後 策定
成果指標	初期値	目標値																																																
①授業への取組 2年	26%	40%																																																
1年	32%	40%																																																
①平日学習時間 2年	2.06	2.5																																																
1年	2.23	2.5																																																
①休日学習時間 2年	3.20	3.5																																																
1年	3.52	3.6																																																
③授業で力が	2年	8%	15%																																															
ついた実感	1年	12%	18%																																															
①難関国公立大学の受験者数	140人	140人																																																
②外部連携による探究活動 参加生徒数	90人	150人																																																
②大学進学を目的とした補習 参加生徒数	830人	850人																																																
③難関国公立大学の合格者数	69人	70人																																																
①難関国公立大学の志願者数	160人	160																																																
③キャリア意識の高まりと 進路目標の設定	今後 策定	今後 策定																																																
<p><2 取組方法></p>																																																		
<p><生徒の学力向上> ○専門家の講話を聴き、仕事のやりがいや課題を知り、広い視野を持って社会に貢献できるリーダーを育成する。 ○机上の学問だけでなく、体験を積むキャリア教育を進め、進路意識を高める。 ○留学や英語ディベート等を通して文化の異なる人々と交流ができる国際人を育成する。 ○科学講座や医学講座に参加して科学に関心を高め、課題を発見する態度を養う。</p> <p><教員の指導力向上> ○求められる教育について研修し、深い学びを研究する。 ○授業では、生徒が常に頭を働かせて学問に興味を持ち、追究してみたいくなる仕掛けを行う（発問の工夫）。 ○生徒の体験活動への機会を積極的に提供する。 ○部活動等を通して意欲ある生徒を支援し、能力を伸ばす指導を行う。</p>																																																		

<4 特徴的な取組>

生徒の体験活動Ⅰ



エンパワーメントプログラム

8/20(月)～24(金) 48人参加。
外国人大学生と5日間、学校でグループごと英語だけの討論や活動を体験。英語が苦手な生徒にも自信が付き、自らの英語でコミュニケーション能力を伸ばす取組。英語の4技能向上。

医学講座

医学科志望者対象、講師は現職医師
9月～2月、年4回。医療現場の実態、医療に向ける心構え、職務の使命感を学ぶことで医学的知識を深め、高い倫理観や使命感を持った医学科志望者を育てる。



PDA東海公立高校即興型英語ディベート交流大会 (会場：岐阜高校)

6/16(土)、本校から10人参加、岡崎・岐阜・四日市高校と対戦(交流)

5/15(火)事前練習会(大阪府大講師、名古屋大学生等)

*1, 2年生の希望者を集め、事前練習で英語ディベートの基礎を学び、大会に出場

*英語ディベートを通して英語4技能の向上

*国際交流に向けた積極的な態度を育成

生徒の体験活動Ⅱ



東大キャンパスツアー



JAXA見学



留学発表会

東大キャンパスツアー

本校独自の企画、OB教員・OB学生を訪問、JAXAも訪問、82人参加。
6/5(火)、6(水)
研究室を訪ね、夜にはOBと座談会を開くことで関心と意欲を高める。

海外研修への積極的参加

(選出/応募 人)

モンゴル高校生交流0/5人、高校生の海外体験促進事業(カリフォルニア大学3/5人、ジョージタウン大学1/1人)
「トビタテ」等留学事業の積極的紹介(個人短期留学1人)：高校時代から留学することで国際感覚を養い、海外への意識を高める。
→9/19(水)留学発表会：各自プレゼンし、表現力の向上を目指す。

大学科学講座 名古屋大学G S C 2/7人、静岡大学F S S 1/1人、県立大薬学部ファーマカレッジ3/5人
生徒に案内し、自然科学部を中心に希望者が参加し、数名が難関を突破した。(選出/応募 人)

高校生のための金曜特別講座

(東大教養学部による公開講座中継) 5月～12月
前期6回、後期7回、希望者対象。東大講師や他高校生とスカイプの相互交信を利用したライブ講座。

進路講演会 10/19(金)

1, 2年生全員、多分野の社会人講話(卒業生12人)
関心のある分野の専門家から仕事のやりがいと課題を聞くキャリア教育。

教育講演会 5/11(金)全員参加

東大院農学生命科学研究科磯貝明教授「農学生命科学研究の現状」

土曜授業年17回、進学講習

教員の指導力向上

職員研修 「進学校の特色ある教育」をテーマに京大教授や教育ジャーナリストを講師に招請。

地方公立名門校の取組をもとに対話的活動やキャリア教育の重要性について理解し、本校のこれからの教育について研修。
6/28、8/30 *校内研修を他校にも開放。



京大教授による研修

県外学校視察 進学校における特色ある教育の研究
地方公立名門校と呼ばれる13校の視察。教員の資質向上と情報共有

新学習指導要領、
大学入試改革の研究

<5 成果と今後の方向性>

今回の取組で本予算を利用したのは上記の一部の事業だけだが、本事業に影響されてそれ以外の取組が新たに始まったり、これまでの取組に充実度が加わったりした。高い潜在能力を持つ生徒たちであるため、体験活動の機会を与えれば積極的に参加し、成果を挙げることが実証された。教員にも自ら進んで研修に参加したいという主体的な意欲が生まれ、資質能力の向上に向けた取組が進んでいる。

教員が研修を積んで授業改善を進めたり、意欲ある生徒を支援したりすることで、生徒が発展的に学習に向かう態度が育成される。教師側の教育力と生徒の意欲的な学習活動が融合すると効果が上がる。今後も本事業を活用し、多様な体験を通じたキャリア教育や深い学びを推進し、これからの教育の本質を追究していく。

1 テーマ

人生を主体的に切り拓き、
高い志を持って社会に貢献する人材の育成
～大学入試改革及び次期学習指導要領に対応する
指導体制の確立を通して～

2 取組方法

背景

- 新入生の9割以上が国公立大学希望、3年生の約5割が現役で国公立大学合格
- 学力向上アドバンススクール事業（H27～H29）により、本校定義の難関国公立大学の受験者数及び合格者数は増加
- コアスクール事業での難関国公立大学の受験者数及び合格者数は、まだ不十分

取組

- ☆ 学力向上指導とキャリア教育を充実させ、高い志を持って進路目標に挑戦する生徒を育成
- ☆ 学校経営目標「生徒の可能性を広げて確固たる志を育て、生涯にわたって自己実現を目指しながら、我国及び国際社会の発展に貢献できる人材の育成」を推進

背景

- 知識の量だけでなく、主体性を持って多様な人々と協力しながら、混沌とした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくことのできる資質・能力の育成（平成 28 年 3 月高大接続システム改革会議最終報告）
- 新しい社会状況に適応する資質・能力の育成は、本校にとって喫緊の課題

取組

- ☆ 人生を主体的に切り拓き、多様な人々と協働して課題解決し、創造的価値を生み出すことのできる人材の育成を目指した学習指導・進路指導体制を確立

3 成果指標

成果指標	初期値	目標値
① 授業への取組 2年・1年	33.1%・28.5%	35.0%・30.0%
① 平日学習時間 2年・1年	1.46h・1.62h	2.00h・2.00h
① 休日学習時間 2年・1年	2.44h・2.85h	3.00h・3.00h
② 授業で力がついた実感 2年・1年	8.4%・8.8%	10.0%・10.0%
① 難関国公立大学受験者数	19人	20人
② 外部との連携による探究活動への参加者数	24人	30人
② 大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	838人	850人
③ 難関国公立大学の合格者数	7人	8人

成果指標	初期値	目標値
① 自分の将来は自分で動けば変えられると考える生徒（1年）	—	90%
① 自分の志望する大学または学部を具体的に挙げられる生徒（2年）	—	80%
③ 国公立大学の合格者数	167人	180人

4 特徴的な取組

未来構想委員会の設置と取組

多面的・総合的評価

- 高校活動の評価(調査書)
- 学修計画書評価
- 面接・プレゼン評価

○ 国語・数学
 マーク式+記述問題
 ☆ 考えを述べる力・発信力
 ☆ データを分析し論理的に考察する力

○ 英語
 4技能(聞く・読む・話す・書く)の評価
 ☆ 民間の英語検定を活用

未来構想委員会

指導体制構築 PT/東陵ヒナ-改革 PT/アクティブ・ラーニング 推進 PT

- ☆ 思考力・判断力・表現力を養成する授業展開(国語・数学・各教科)
- ☆ 習熟度に応じた授業展開で問題解決能力と表現力を育成(数学)

- ☆ 4技能を育てる授業展開
- ☆ 年2回のGTEC受検
- ☆ British Hills 英語宿泊研修で異文化体験

- ☆ Classi システムを導入
→ 学習・活動のeポートフォリオ蓄積
動画配信学習支援
- ☆ 課題解決的な探究学習で主体性・協働性を育成

キャリア教育の充実

キャリア講演会
「人工知能の社会を私たちはどう生きるか」
講師：国立情報学研究所 新井紀子教授



大学模擬授業
大学教官による模擬授業



3年

職業人インタビュー
職業研究と発表会



大学見学
見学及び発表会



DVD講座
難関大受験教材と解法 DVD 講座



キャリア講座
さまざまな職業分野の専門家による職業講座



アカデミックインターンシップⅠ
静岡大学と連携した実験実習講座



1年

留学生との交流事業
アジア各国の留学生を招き、ディスカッション



アカデミックインターンシップⅡ
市内大学での専門教養講座と単位取得

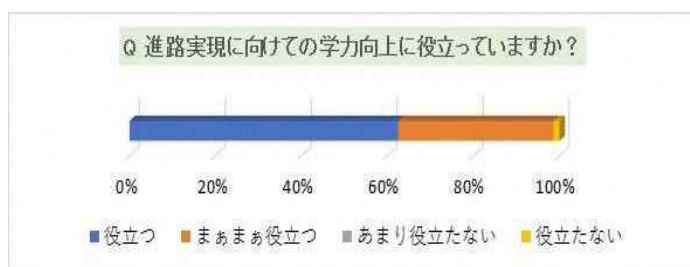


<p><1 テーマ></p> <p>外部との連携等による東高生の学力と資質・能力の更なる高次元化</p>	<p><3 成果指標と実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績(評価)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>35%</td> <td>40%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>106分</td> <td>120分</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>164分</td> <td>180分</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>③授業で力が 2年</td> <td>8%</td> <td>15%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>ついた実感 1年</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>①難関国立受験数</td> <td>64人</td> <td>70人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>②外部連携参加数</td> <td>50人</td> <td>70人</td> <td>*70人 ()</td> </tr> <tr> <td>②補修等への参加数</td> <td>—</td> <td>70人</td> <td>72人 ()</td> </tr> <tr> <td>③難関国立合格数</td> <td>34人</td> <td>40人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>③予備校講師満足度</td> <td>—</td> <td>80%</td> <td>*97.2% ()</td> </tr> <tr> <td>③大学研修の評価</td> <td>—</td> <td>80%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>②深い学びの実現</td> <td>60%</td> <td>65%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>③記述模試 2年</td> <td>140人</td> <td>160人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>SS60以上 3年</td> <td>85人</td> <td>90人</td> <td>()</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標	初期値	目標値	実績(評価)	①授業への取組 2年	35%	40%	()	1年	—	—	()	①平日学習時間 2年	106分	120分	()	1年	—	—	()	①休日学習時間 2年	164分	180分	()	1年	—	—	()	③授業で力が 2年	8%	15%	()	ついた実感 1年	—	—	()	①難関国立受験数	64人	70人	()	②外部連携参加数	50人	70人	*70人 ()	②補修等への参加数	—	70人	72人 ()	③難関国立合格数	34人	40人	()	③予備校講師満足度	—	80%	*97.2% ()	③大学研修の評価	—	80%	()	②深い学びの実現	60%	65%	()	③記述模試 2年	140人	160人	()	SS60以上 3年	85人	90人	()
成果指標	初期値	目標値	実績(評価)																																																																						
①授業への取組 2年	35%	40%	()																																																																						
1年	—	—	()																																																																						
①平日学習時間 2年	106分	120分	()																																																																						
1年	—	—	()																																																																						
①休日学習時間 2年	164分	180分	()																																																																						
1年	—	—	()																																																																						
③授業で力が 2年	8%	15%	()																																																																						
ついた実感 1年	—	—	()																																																																						
①難関国立受験数	64人	70人	()																																																																						
②外部連携参加数	50人	70人	*70人 ()																																																																						
②補修等への参加数	—	70人	72人 ()																																																																						
③難関国立合格数	34人	40人	()																																																																						
③予備校講師満足度	—	80%	*97.2% ()																																																																						
③大学研修の評価	—	80%	()																																																																						
②深い学びの実現	60%	65%	()																																																																						
③記述模試 2年	140人	160人	()																																																																						
SS60以上 3年	85人	90人	()																																																																						
<p><2 取組方法></p> <p>I. 予備校講師による補講 代々木ゼミナールの講師による補講を実施</p> <p>II. 東大・京大・名大での研修 大学によるオープンキャンパス時等に、本校卒業の在学生との交流会・研修を実施</p> <p>III. 静岡県立大学薬学部の研究室訪問 8月に講義・見学・実習による研修を実施</p> <p>IV. 浜松医科大学における研修 大学による授業開放を選択して受講</p> <p>V. 大学、企業等による出前講義 10大学(12学部)による出前講義、県内の8企業等による職業レクチャーを実施</p>																																																																									

<4 特徴的な取組>

I. 予備校講師による補講

- ・代々木ゼミナール東京校の講師3人(国・数・英)
2年生の希望者対象(72人が受講)
原則として木曜日の放課後、各8回(計24回)実施
- ・アンケート結果(2018年10月実施)



松本先生による英語の講義

II. 東大・京大・名大での研修

- 東京大学** 8/2 大学のオープンキャンパス時 4人参加
- ・本校卒業の在学生2人との交流会(大学、研究内容等の理解)
 - ・キャンパスツアーの実施
- 名古屋大学** 9/27 本校にて実施 43人参加
- ・本校卒業の在学生4人が来校して交流会(研究内容等の理解)
- ※京都大学は日程調整ができなかったため実施せず。



東大の講義室での交流会

Ⅲ. 静岡県立大学薬学部の研究室訪問

・ 8/20・21実施 10人参加 5研究室において講義・見学・実験・実習を実施

{薬物動態学、医薬生命化学、医薬品製造化学、分子病態学、薬食研究推進センター}



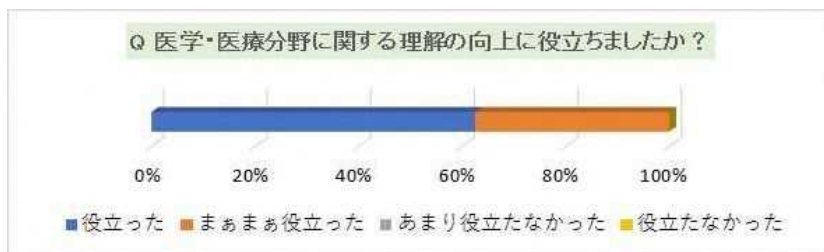
医薬品製造化学研究室での実験

「病気になるれば薬を処方してもらるのが当然と考えていた私は喝を入れられました。食生活を変え、地域社会とのつながりを強めることで病気を予防するという考え方に方向転換しようと思います。」（1年男子）

「高校では使用しない器具を使って実験し、大学生になったような気分になりました。目的物生成のために、どのような実験を行うかを自分で考えるというところが高校とは異なると感じました。」（2年女子）

Ⅳ. 浜松医科大学における研修

・ 6/4～15 に行われた大学による授業開放に、興味・関心分野の講義を選択して受講 8人参加



Ⅴ. 大学、企業等による出前講義

大学 10/12実施 10大学（12学部）による出前講義 2年生全員参加 2つを選択受講

企業等 7/6実施 県内の8企業、官公庁等による職業レクチャー 1年生全員参加 2つを選択受講



出前講義 浜松医科大学外科学



職業レクチャー 浜松ホトニクス

<5 成果と今後の方向性>

- ・ 外部（予備校、大学、卒業生、企業等）との連携による事業・行事について、生徒の評価は良好であり、連携先との関係を今後も維持していく。また、参加前後の研修・振り返りを行うことにより、単なる聴講・体験にとどまらず、生徒の学力及びキャリア意識の向上につながっている。事前・事後の研修・活動において思考力・判断力・表現力を促進するツールを改善していく。
- ・ 生徒の学力向上及び高大接続改革に向けて教員の指導力向上を図る取組については、改善の余地があると考え。効果的に組織的な取組が実践できるよう今後も工夫していく。

<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>																																																																									
<p>夢をもつ！主体的に学ぶ！努力をする！（「キャリア教育」、「アクティブラーニングICT」、「生徒が努力できる環境づくり」の融合を図る指導）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績（評価）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>28.0%</td> <td>30%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>33.1%</td> <td>35%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>100.6分</td> <td>105分</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>90.8分</td> <td>95分</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>149.1分</td> <td>155分</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>131.2分</td> <td>135分</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>③授業で力が</td> <td>2年</td> <td>8.4%</td> <td>10%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>ついた実感</td> <td>1年</td> <td>6.8%</td> <td>8%</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>①難関国公立大学の受験者数</td> <td>46人</td> <td>50人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>②外部との連携による探究活動等への参加生徒数</td> <td>16人</td> <td>18人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数</td> <td>延約 1,000人</td> <td>1,100人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>③難関国公立大学の合格者数</td> <td>14人</td> <td>18人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>大学教官出張講義</td> <td>100人</td> <td>120人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>自然科学部の活動</td> <td>16人</td> <td>18人</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>大学入学共通テストに対応した副教材の製作</td> <td>なし</td> <td>研究・資料集め</td> <td>()</td> </tr> <tr> <td>小学生・中学生対象の理科コンクールの開催</td> <td>0人</td> <td>10人</td> <td>()</td> </tr> </tbody> </table>				成果指標	初期値	目標値	実績（評価）	①授業への取組 2年	28.0%	30%	()	1年	33.1%	35%	()	①平日学習時間 2年	100.6分	105分	()	1年	90.8分	95分	()	①休日学習時間 2年	149.1分	155分	()	1年	131.2分	135分	()	③授業で力が	2年	8.4%	10%	()	ついた実感	1年	6.8%	8%	()	①難関国公立大学の受験者数	46人	50人	()	②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	16人	18人	()	②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	延約 1,000人	1,100人	()	③難関国公立大学の合格者数	14人	18人	()	大学教官出張講義	100人	120人	()	自然科学部の活動	16人	18人	()	大学入学共通テストに対応した副教材の製作	なし	研究・資料集め	()	小学生・中学生対象の理科コンクールの開催	0人	10人	()
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）																																																																							
①授業への取組 2年	28.0%	30%	()																																																																							
1年	33.1%	35%	()																																																																							
①平日学習時間 2年	100.6分	105分	()																																																																							
1年	90.8分	95分	()																																																																							
①休日学習時間 2年	149.1分	155分	()																																																																							
1年	131.2分	135分	()																																																																							
③授業で力が	2年	8.4%	10%	()																																																																						
ついた実感	1年	6.8%	8%	()																																																																						
①難関国公立大学の受験者数	46人	50人	()																																																																							
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	16人	18人	()																																																																							
②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	延約 1,000人	1,100人	()																																																																							
③難関国公立大学の合格者数	14人	18人	()																																																																							
大学教官出張講義	100人	120人	()																																																																							
自然科学部の活動	16人	18人	()																																																																							
大学入学共通テストに対応した副教材の製作	なし	研究・資料集め	()																																																																							
小学生・中学生対象の理科コンクールの開催	0人	10人	()																																																																							
<2 取組方法>																																																																										
<p>①キャリア教育的な取組を行って、生徒の意識向上を図る。（大学教官出張講義、社会人講話、大学研究所訪問、自然科学部の活動等）</p> <p>②アクティブラーニング、ICT教育等を通じて主体的な学習への取組を促進する。</p> <p>③生徒が学習に対して真摯に取り組むことができるよう、大学入学共通テストや新教育課程等の研究や、副教材の製作などに取り組む。</p> <p>さらに、①～③の取組等を通して、教員の指導力向上を図り、生徒の学力向上に資するものとする。</p> <p>また、本校はコアスクール（英語教育）でも指定を受け、エンパワーメントプログラムなどの活動を行っている。それらの活動も進学に良い影響を与えるものと思われる。コアスクールの進学重点と英語教育との互いの成果により、相乗効果が生まれるものと期待する。</p>																																																																										

<4 特徴的な取組>

自然科学部の取組

台湾の台北市立建国高級中学とお茶の系統解析に関して共同研究を行っている。

空中に浮遊するフクロウの皮脂細胞からDNAを採取し、生息域を調査するなど先進的な取組を行っている。フクロウの調査では「第8回高校生バイオサミットin鶴岡」で文部科学大臣賞を受賞した。



プロジェクションマッピング

掛川城を舞台にプロジェクションマッピングを行い、生徒のICTへの興味関心を喚起するとともに、市役所などを巻き込んで、地域との連携を図っている。（現在、企画準備中。今年度は12月に行う予定。）



ICT インドネシアと通信

普段から多くの教員が積極的にICTを活用して、授業を行っている。

ICTを活用して、インドネシアの高校（バンドン国立第一高校）と通信し、「インドネシアとビデオ会議、歴史・文化交流 タブレット端末～Zoom, SchoolTaktを使って～」と題して授業を行った。



<5 成果と今後の方向性>

コアスクールとして活動を始めて、まだ半年しか経過していないので、目に見える成果はほとんどない。成果が見えてくるのは、今後1年2年が経過してからであろうか。また、生徒が卒業して何年かして、その生徒の中に成果として出てくるものがあるのかもしれない。

しかし、従来からの活動として行っているものの中には、すでに成果の萌芽が見えているものもある。例えば、自然科学部の活動では、先進的な研究を行うことによって、生徒は自然科学分野の学術研究について強い興味を持ち、自分の将来についてのビジョンを持つようになってきている。また、プロジェクションマッピングやインドネシアの高校とのインターネットを介した通信は生徒の主体性や意欲を喚起し、成果をあげている。

本校のコアスクールの理念はこれらの特色ある取り組みだけではなく、生徒の学習に対する努力やそれをバックアップする教員の学習や教科、教材等に関する研究など、地道な活動も大きな柱として考えている。どのような取組をどのように行うかを研究することによって、生徒の学力向上と教員の指導力向上を図るような研究を今後は行っていきたい。

また、新テストや新教育課程の研究をすることと、学力向上や指導力向上とはリンクする部分があるため、それらとの関連性を考えながら今後は進めていくことになるとと思われる。

加えて、本校は英語教育でもコアスクールの指定を受けている。英語教育は進学の上では切っても切れない関係であるため、コアスクールの英語教育と進学重点の理念を融合して進めていくことも必要であろう。今後の大きな課題である。

<p><1 テーマ></p> <p>新制度入試に向けた効果的な学力向上事業の研究</p>	<p><3 成果指標と実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績（評価）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>33.7</td> <td>34.0</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>39.6</td> <td>40.0</td> <td>（）</td> </tr> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>1.8</td> <td>2.0</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>1.8</td> <td>2.0</td> <td>（）</td> </tr> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>3.1</td> <td>3.5</td> <td>（）</td> </tr> <tr> <td>③授業で力がついた実感 2年</td> <td>12.0</td> <td>12.5</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>11.4</td> <td>12.0</td> <td>（）</td> </tr> <tr> <td>①難関国公立大学の受験者数</td> <td>87</td> <td>100</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>②外部との連携による探究活動等への参加生徒数</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数</td> <td>522</td> <td>550</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>③難関国公立大学の合格者数</td> <td>48</td> <td>60</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>③東大・京大合格者数</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>③国公立大学合格者数</td> <td>156</td> <td>160</td> <td>未定（）</td> </tr> <tr> <td>③難関大（本校で指定）合格者数</td> <td>35</td> <td>40</td> <td>未定（）</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）	①授業への取組 2年	33.7	34.0	未定（）	1年	39.6	40.0	（）	①平日学習時間 2年	1.8	2.0	未定（）	1年	1.8	2.0	（）	①休日学習時間 2年	3.0	3.5	未定（）	1年	3.1	3.5	（）	③授業で力がついた実感 2年	12.0	12.5	未定（）	1年	11.4	12.0	（）	①難関国公立大学の受験者数	87	100	未定（）	②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	10	15	未定（）	②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	522	550	未定（）	③難関国公立大学の合格者数	48	60	未定（）	③東大・京大合格者数	4	8	未定（）	③国公立大学合格者数	156	160	未定（）	③難関大（本校で指定）合格者数	35	40	未定（）
成果指標		初期値	目標値	実績（評価）																																																													
①授業への取組 2年	33.7	34.0	未定（）																																																														
1年	39.6	40.0	（）																																																														
①平日学習時間 2年	1.8	2.0	未定（）																																																														
1年	1.8	2.0	（）																																																														
①休日学習時間 2年	3.0	3.5	未定（）																																																														
1年	3.1	3.5	（）																																																														
③授業で力がついた実感 2年	12.0	12.5	未定（）																																																														
1年	11.4	12.0	（）																																																														
①難関国公立大学の受験者数	87	100	未定（）																																																														
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	10	15	未定（）																																																														
②大学進学を目的とした補習等への参加生徒数	522	550	未定（）																																																														
③難関国公立大学の合格者数	48	60	未定（）																																																														
③東大・京大合格者数	4	8	未定（）																																																														
③国公立大学合格者数	156	160	未定（）																																																														
③難関大（本校で指定）合格者数	35	40	未定（）																																																														
<p><2 取組方法></p> <p>旧帝大への英語セミナー ミニ大学 ミニ探究ノートによる探究活動の充実 企業との連携事業 授業力向上プログラム 入試研究会の参加 相互授業参観 医療系面接対策講座 理数科課題研究における高大連携 難関大高大連携事業 アンケートの実施、入試結果の分析 高大連携実験実習講座 理数科課題研究発表会における高大連携等</p>																																																																	

<4 特徴的な取組>

旧帝大への英語セミナー



ミニ大学



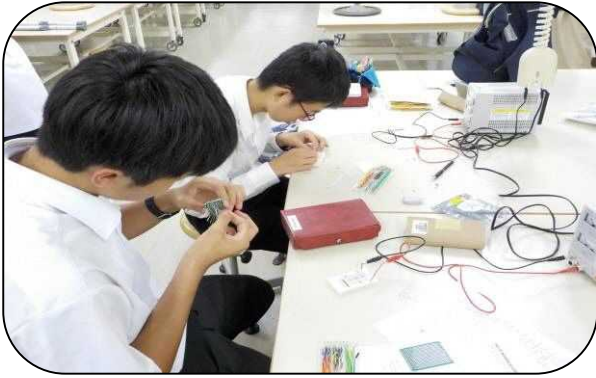
授業力向上プログラム（研修会参加）



授業力向上プログラム（校内研修）



高大連携実験実習講座（静岡大学）



高大連携実験実習講座（静岡理科大学）



企業との連携事業（スズキ株式会社）



理数科課題研究における高大連携（中間発表会）



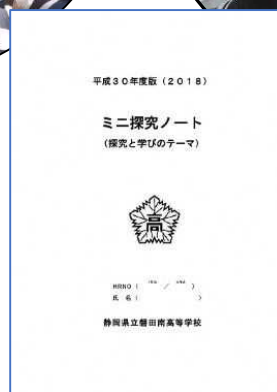
入試研究会の参加（進路情報提供会）



医療系講座（志望理由書講座）



ミニ探究ノートによる
探究活動の充実



<5 成果と今後の方向性>

- 成果としては、実施予定の事業は現在のところ予定通り行うことができている。また、上記以外に進路課を中心に、卒業生の現役大学生との交流事業「磐南みらいSCHOOL」（今年度新規）や、生徒対象の入試問題解説会など本事業の趣旨に沿った事業を実施している。これらの事業成果も含めて、目標値達成に向けて努力を続けていきたい。
- 今後の方向性としては、今後もPDCAを効果的に行って事業の精選、改善や新規事業の可能性などを検討し実施していきたい。

<p><1 テーマ></p> <p>生徒個々の高いレベルでの進路実現</p>	<p><3 成果指標と実績></p>			
<p><2 取組方法></p> <p>(1) キャリア教育の一環として、先輩による講義、大学特別講義等を実施する。</p> <p>(2) 外部講師を招聘し、医学部医学科セミナーを実施する。</p> <p>(3) 法曹界と連携し、生徒が裁判選手権に出場して、理解を深める。</p> <p>(4) 外部教育機関の講師と教科別学習会を開き、教員の教科指導力の向上を図る。</p> <p>(5) 県外の公立高等学校を訪問し、新学習指導要領・大学入学共通テスト・調査書等への対応について研究を行う。</p>	<p>成果指標</p>	<p>初期値</p>	<p>目標値</p>	<p>実績 (評価)</p>
<p>①授業への取組 2年 34%</p> <p>1年 38.3%</p>	<p>36%</p> <p>40%</p>	<p>()</p> <p>()</p>	<p>()</p> <p>()</p>	
<p>①平日学習時間 2年 2.4h</p> <p>1年 2h</p>	<p>2.6h</p> <p>2.2h</p>	<p>()</p> <p>()</p>	<p>()</p> <p>()</p>	
<p>①休日学習時間 2年 4h</p> <p>1年 3.4h</p>	<p>4.2h</p> <p>3.6h</p>	<p>()</p> <p>()</p>	<p>()</p> <p>()</p>	
<p>③授業で力がついた実感 2年 8%</p> <p>1年 10.5%</p>	<p>10%</p> <p>12%</p>	<p>()</p> <p>()</p>	<p>()</p> <p>()</p>	
<p>①難関国公立大受験者数</p>	<p>198</p>	<p>210</p>	<p>()</p>	
<p>②探究活動の参加生徒数</p>	<p>25</p>	<p>30</p>	<p>()</p>	
<p>②補習参加生徒数</p>	<p>2,000</p>	<p>2,100</p>	<p>()</p>	
<p>③難関国公立大合格者数</p>	<p>53</p>	<p>63</p>	<p>()</p>	
<p>①難関国公立進路希望者数</p>	<p>306</p>	<p>310</p>	<p>()</p>	
<p>②医学部医学科合格者数</p>	<p>10</p>	<p>12</p>	<p>()</p>	
<p>③模試成績上位者数</p>	<p>108</p>	<p>110</p>	<p>()</p>	
<p>③センター8割以上</p>	<p>97</p>	<p>100</p>	<p>()</p>	

<4 特徴的な取組>

先輩による講義（1，2年生）



弁護士、CMディレクター、日本航空、浜松信用金庫、遠州鉄道公認会計士、公務員、勤務医、医学系教授、理系大学教授、薬剤師、理系起業家、会社社長など計17名

生徒の感想

- 今回講座を受講したことにより、医学分野においてどのように社会へ貢献しているのかを知ることができ、将来への見通しがより明確なものとなった。
- 私が講話のなかで一番驚いたことは「実力の過信はいいことだ」ということです。私は今まで本当に自分に自信を持つことができませんでした。けれど、たとえ力がなかったとしても、自分の中では少しはあると思って生活していたほうが、さらなる力を発揮できるのではないかと思います。

教科指導力向上講座

外部教育機関から
国語・数学・英語の
有名講師を招聘し、
東京大学をはじめと
する難関大学の入試
問題について協議。



裁判選手権（関東大会）



【練習①】



【練習②】



【弁護士会館でも練習】



【壮行会】



【直前まで打合せ】



【開会式】



【弁護側①】



【弁護側②】



【検察側①】



【検察側②】



【優勝】

<5 成果と今後の方向性>

(1) 先輩による講義

先輩の様々な話を聴くことにより、生徒一人一人が自分の将来について考え、具体的なイメージを抱き、これからの高校生活を送る上での良い刺激になった。

(2) 教科指導力向上講座

一方的な講義形式ではなく、講師との協議を通じて、今までの指導法や問題に対する考え方等を確認でき、これからの教科指導に役立つものとなった。

(3) 裁判選手権

地元の弁護士会の方の協力を得つつ、参加した生徒たちも懸命に頑張り、見事3年ぶりの優勝を勝ち取ることができた。今回参加した生徒達の法曹界への憧れはさらに深いものになった。

※後半も様々な仕掛けを行うことによって、目標値に少しでも近づくことができると思われる。

1 研究テーマ

「西山台ドリームプランⅡ」 主体的な学習姿勢の確立と進路実現

2 研究課題

- (1) これからの時代に求められる学力(基礎的・基本的知識・技能を活用する力)及び学び続ける力(主体性の確立、学習意欲の向上)の育成
- (2) 生徒の学力向上、教員の授業力向上、学校の教育力向上
- (3) 学習指導要領の改訂、新テストの導入等に対応した学校の体制づくり

3 成果指標

<p>(H30 主な成果指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難関国公立大学25名以上 =定員240名の約10%以上 ・国公立大学合格100名以上 =定員240名の約40%以上 ・平日の家庭学習時間 (2、1年) 2時間 ・授業の内容がよくわかる (2、1年) 15% 	<p>(H30 達成状況)</p> <p>現時点では未確定</p>
---	-----------------------------------

4 特徴的な取組

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を意識した実践的研究

生徒の「学び」に注目。「どのような学びが成立しているか」を考察



- ① 教員相互の授業参観…授業見学カードを活用して授業改善へ
- ② 授業検討会…ICTを活用したアクティブラーニングの実践的研究

(2) 生徒の進路意識の高揚



キャンパスツアー
東大地震研究所
で卒業生の
説明を聞く

- ・ キャンパスツアー…東大・京大を隔年訪問
- ・ 大学レクチャー…大学教員の模擬授業（高2 12月実施予定）
- ・ 静岡大学研究室訪問（中3 2月実施予定）
- ・ 西山台チャレンジサポート…校外活動に参加する生徒に奨励金を授与して挑戦を支援

(3) 高大接続改革に対応した学校体制づくり

- ・ 教員研修…外部教育機関の講習で教科指導力向上（のべ13名）
- ・ 先進校視察 5視点を設定し視察。次年度以降に向け提言を職員会議で報告予定〔視察先〕
 - ①学習指導要領の改訂〔白鷗、東葛飾、西京、京都府立総合教育センター〕
 - ②新テスト対応〔小石川、九段、倉敷天城、操山、大安寺〕
 - ③総合的な学習の時間（探究活動）への取組〔一条、嵯峨野、高槻、清風南海、千葉、両国〕
 - ④ICTの効果的活用〔広尾、東京学芸大附属〕
 - ⑤中高一貫校の課外活動〔高志、金沢錦丘〕
- ・ 各種教育セミナーにて情報収集（参加者）
 - ①夏の教育セミナー「新学習指導要領と大学入試改革」（副校長、教務主任、進路指導主事）
 - ②Google for Education（研修主任）
 - ③名古屋大学教育基盤連携本部セミナー（進路指導主事）

5 現時点での成果と今後の方向性

成果 授業検討会、先進校視察により新学習指導要領が育成を目指す資質・能力と2つの新テストへの教員の関心が高まり、授業改善への意識が高まった。

今後の方向性 生徒の主体的な学習姿勢を伸ばし、深い学びを実現することで、学力向上につなげていく。教員の授業力向上、日々の授業改善に努める。